



国際ロータリー第 2530 地区 東北第一分区

福島南ロータリークラブ会報

事務局連絡先 024-546-3793

第 9 回例会

2020.9.9

国際ロータリー会長

ホルガー・クナーク Holger Knaack

会員 73 名中 54 名出席 73.97%

修正 56 人 76.71%

メイクアップ 2 名

国際ロータリー第2530地区ガバナー 石黒 秀司

福島南ロータリークラブ 会長 松崎 弘昭

標語「後から来る者の種火となって共に熱く燃えよう」

例会会場連絡先/クラークリアンテナパレス TEL 024-523-3811 毎週水曜日 12:30~

◆会長挨拶 松崎 弘昭 会長



9 月に入って、朝晩の空が心持ち高くなり、阿武隈川の淵に澗も流れも良く澄んで、
揺蕩と夏草がのんびり流れているのを見かけると、季節の移ろいを感じます。

さて、今月は、基本的教育の月間ですが、一般的に良い学校を出て、大きな会社
や大きな組織に入って活躍している人を我々庶民は、「頭の良い人」と言って一目を置い
ていることが多いようです。そして、彼らは、豊富な知識を武器に、社会に出て様々な

経験をすることで、考える力を得て完璧なまでの鎧を身につけるようになるのです。

しかし、このような立派な人たちの中でも、犯罪に手を染めてしまう人や会社を倒産へ向かわせてしまう人
がいるのです。何故かと考えてみると、あることが見えてきます。つまり、学校で教わる知識というのは、
頭の回転の良し悪しは多少あったとしても、訓練次第でどうにでもなることなのです。そして、知識を利用して
考えることは、その環境が与えられれば、それなりに身につくものなのです。成功する人と犯罪に手を染めたり、
進むべき道を誤ったりする人の違いは何なにかと考えてみると、「考え抜く力があるかどうか」なのだろうだ
と思います。これは、単純に目の前に起きる事象にどう対処するかを考え抜くということではなく、哲学的に、
「どうあるべきか」を根本において考えることなのです。如何に目先のことに囚われず、全体を俯瞰して見る
洞察力があるかどうかはその分水嶺になるようです。

今日は、皆さんが知っている元ラジオ福島アナウンサーの大和田新さんから、基本的教育とも関わる「伝える
ことの大切さ、伝えることの素晴らしさ」について、仕事柄、様々なことを見て、聴いて、感じてきたこれまで
の経験を基に、お話し頂けることを楽しみにして、会長の挨拶とさせていただきます。

会員の広場：松崎会長雑感

※この広場は会員からの楽しい情報、役に立つ情報など掲載してまいります。是非、会報委員へお声がけ下さい。

「こうあるべきだ」と思う(主張する)ときは、天秤棒で言えば、自分が天秤棒のどの位置にいるのかをよく考えなければならない。

若し、天秤棒の中心にいるのであれば本物だ。しかし、そうでなければ、その思い(主張)は考え直さなければならないのではないだろうか。

菊地幹事川柳 愛してる 暫く言った ことが無い! 愛してる 暫く言われた ことも無い!

次回 9 月 16 日 (水) 第 10 回例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング
3. 四つのテスト
4. 来訪者紹介と会長挨拶
5. スマイリングボックス報告
6. ターゲット贈呈
7. 9 月誕生者スピーチ
8. クラブ広報・雑誌委員会報告
9. 創立 50 周年記念実行委員会報告
10. クラブフォーラム
11. 幹事報告
12. 委員会報告
13. 閉会点鐘

【 例会予定 】

- 9 月 23 日 (水) 休会
9 月 30 日 (水) 新入会員歓迎会、①会員スピーチ

【 地区・分区・その他関連行事 】

- 9 月 18 日 (金) 東北第一分区ガバナー歓迎晩餐会 (クラークリアン)
9 月 19 日 (土) 学友・平和フェロソップ 委員会セミナー (がくと館 郡山)
9 月 26 日 (土) 職業奉仕委員会セミナー (南東北総合卸センター 郡山)
9 月 27 日 (日) ガバナーエレクト事務所開設披露

◆米山奨学金授与

タイバンタンさん



米山奨学生のタイバンタンさんに奨学金をお渡ししました。

就職活動をしていた彼は、地元のヨークベニマルさんに内定をもらったそうです。

本当におめでとうございます!

◆社会・国際奉仕委員会セミナー報告

小坂 和也 委員長



9 月 5 日土曜日にビックパレットふくしまで開催されました「社会・国際奉仕委員会セミナー」に
参加してまいりましたので、ご報告申し上げます。福島南ロータリークラブからは、東北第一分区
ガバナー補佐・廣澤俊樹さん、そして大野順道さん、穴戸隆司さんと私、4 人で参加いたしました。

石黒ガバナーの開会点鐘でセミナーが始まり、国際奉仕委員会のセミナーの講師は、弘前アップル
ロータリークラブの関場慶博(よしひろ)様で、「私が歩んできた国際奉仕の軌跡、そしてこれから」
というご講話でした。関場様は、国際ロータリークラブ第 2830 地区 2000-2001 年度のガバナーをさ
れた方で、ポリオ撲滅に尽力され、「ポリオの無い世界の為の国際奉仕賞」や「国際ロータリー・超

私の奉仕賞」など数々の賞を受賞されております。ポリオ根絶のため、開業医の仕事の間を縫っては世界を飛び回り、インター
アクトクラブの学生を連れて世界の現状を理解してもらい、将来に結び付ける活動もされております。実践している方こそ本当の
ロータリアンだと強く感じました。

続いて、社会奉仕委員会のセミナーの講師は、福島民友新聞社執行役員編集局長の小野広司様で、「震災からの 10 年」とい
うご講話でした。ご講話は、ご自身が報道部デスク勤務だった時の東日本大震災の経験や門田隆将(りゅうしょう)氏の原簿に関する
著書「記者たちは海へ向かった 津波と放射能と福島民友新聞」の内容についてでした。2011 年 3 月 1 日の新聞記者が死んだ。
福島民友新聞記者・熊田由貴生(ゆきお)さん 24 歳。南相馬市最前線で津波取材をしていた彼は自分の命と引き換えに地元の人間の
命を救った。という新聞人たちのノンフィクションでした。震災を通して考えさせられることは、危険を表すカタカナの「フク
シマ」から温かみを感じるひらがなの新しい「ふくしま」へと自分たちで変えていかなければならない。それには正しい放射線
教育をして、地に足のついた福島を目指していかなければならない。というご講話でした。

◆ゲストスピーチ

フリーアナウンサー (元ラジオ福島) 大和田 新 様



元ラジオ福島で、今はフリーアナウンサーの大和田新様より
「伝えることの大切さ、伝えることのすばらしさ」をテーマに
ご講演をいただきました。



冒頭にかわいい手作りのイラストを見ながら、
「てらい、うがい、わらい」3 つの「い」が大切だと始まり、特に「わらい」
は免疫力や、幸せホルモンが出てコロナに負けない健康体を作るのだそうです。

次に食事とは“人”を“良”くする“事”と書きます。
しっかりと食べることも大切です。そして”長生き
ソング”を皆で歌い長寿日本一の福島になるよう、
我々福島南ロータリーから元気を発進しました。



また、5 年前日本で一番大切にしたい会社を選ばれた
福島市にある知人のクラロン田中須美子会長 (95 歳) の「人の役に立つ為、
感謝される為、必要にされる為」そして人の出入りがあるはじめて会社!!
障がい雇用環境も含め参考になるお話でした。



大和田さんはとても良い声で、流れるようなスピーチはあっという間の
時間でした。「伝えることの大切さ、伝えることのすばらしさ」というのは、
話を伝える語り部自身の気持ちにこそあるのだと思いました。感動と感謝の
エピソードもあり、本当に素晴らしいご講演をありがとうございました。